



## 商大はこの場所から未来に向かって

全国各地でご活躍されている会員の皆様におかれましては、新型コロナウイルスの影響により大変なご苦労をなされておられますこと、心よりお見舞い申し上げます。

私も事務局には新型コロナウイルスに感染されたというご報告は届いておりませんが、終息とはいえない状況ではありませんが、『3密』をさげ、ソーシャルディスタンスを保つなど、注意に注意を重ねて健康を第一に日々をお過ごし



**ご挨拶**  
同窓会 会長  
山崎 好美

第49号  
発行  
横浜商科大学  
同窓会  
TEL・FAX 045-583-9031  
<http://www.shodai-ob.com/index.html>  
印刷  
（有）サン・プリンティング  
TEL 03-3750-6633

下さい。国内はもとより世界中で経験したことのない厳しい状況下の中で、同窓会員一人丸となって健全な状態に戻れるよう力を合わせて頑張ってくださいと思います。

今年の4月に7都府県に『緊急事態宣言』が発出され、その後、7都府県以外の道府県に対しても発出されました。約1ヶ月後に解除されましたものの、その間日本中で様々な経済、文化、地域活動が自粛を要請され、本学の同窓会活動も大きく制限されました。同様に各支部も自粛し予定されていた役員会や支部総会の延期及び中止を余儀なくされました。本来であれば、11月に『定期総会』を予定しておりましたが、7月に開催された役員会において、出席される会員の皆様の安心・安全を最優先とし対面式総会は見送りとし書面審議とすることにしました。

何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

コロナ禍での大学の状況は、今年3月に予定されていた『学位記授与式』が新型コ

ロナウイルス感染拡大によるため中止となりました。卒業生の皆様方にとっては学生生活最後の晴れ舞台に立つこともなく教職員の方々に見送られることもなく巣立っていくことになりました。4月に開催予定であった『令和2年度入学式』も同様な事情により中止となりました。新1年生は今日の今日までキャンパス内には入れず授業はオンラインで行われているため同級生の顔も分からず学生生活を送っていることと想われます。

同窓会といたしましては、大学、育友会と協力して学生の支援に取り組んでいます。が、支援実現に向けて会員の皆様のご理解、ご協力を心からお願い申し上げます。

現在の厳しい状況が1日も早く終息し、安心して学生生活が迎えられること、会員の皆様の健康、社会生活等の安寧をご祈念し、ご挨拶申し上げます。

会員の皆様、お互いに力を合わせて、この厳しい状況を乗り越えていきましょう。

# 第44回 定期総会・懇親会

2019年(令和元年)11月9日(土)午後4時より、総会・午後5時より懇親会が開催されました。



議長 第1期生 関口文男氏



**第14回 支部長会議**  
総会に先立ち午後2時より開催されました。  
17支部の代表が出席し、今後の支部運営などについて意見交換されました。





《年々出席者が多くなっている懇親会》  
 山崎同窓会会長の挨拶ではじまり、清水理事長、佐々商学部長、鈴木育友会会長よりご挨拶いただきました。



佐々商学部長



鈴木育友会会長



清水理事長



山崎同窓会会長



村本賢亮氏（40回生）  
 ご夫妻で旭川市より参加  
 チョコレートのパティシエでピン  
 ゴの景品に使わせてもらいました。  
 とっても本場の味は  
 おいしかった！



大盛況の大抽選会 今回残念だった方は次回にご期待を！



## 学長就任のご挨拶

横浜商科大学学長 清水雅彦



卒業生の皆様、4月1日に学長に就任しました清水雅彦です。私はこの4月に理事長と学長を兼務することになりましたので、学長就任にあたり、改めてご挨拶申し上げます。

学長就任直後、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、私はキャンパス閉鎖の決断を余儀なくされ、本来開かれた場所であるはずの大学を閉ざさなければならぬ状況のなかで、大変もどかしく過ごしております。しかし、秋学期から限られた授業ではあるものの、できる限りの対策を行った上で対面授業を再開しております。ようやく大学に学生と活気が戻りつつあり、一日も早く大学のあるべき姿を取り戻したいと願って

います。

コロナ禍において、全世界の経済や社会の構造は大きく変化しました。感染症が収束した後、我々は、社会において、どのような構造変化が起ったかを検証しなければなりません。しかし、構造変化については、学問的によくわかっていません。本学では、フィールドワークを中心とした教育を行っていますが、学問は、得られた知見にどのような裏付けがあるのかが必ず問われます。得られた結果をどう結論づけるか。本学の特色である実証的な研究と実践的な教育を存分に生かし、学生に還元していきたいと思えます。

本学は、この危機に際し、同窓会の皆様の多大なるご支援により、他大学に先駆け学生に対する支援を行うことができました。心より御礼申し上げます。私たちが教職員は、多方面から暖かいご支援を頂いたことで、大学がさまざまな出会いの場でもあることを改めて実感いたしました。私たちは、一丸となってこの学

びの場を守ります。卒業生の皆様、コロナウイルスが収束したら、ぜひ大学へ足をお運びください。ともに協力しながら、横浜商科大学と我が国の経済社会の未来を切り開いていきましょう。

最後に、皆様方の益々のご繁栄と本学への変わらぬご支援をお願いいたします。ご挨拶とさせていただきます。

学生とともに  
商大の学び

兼任講師 西村 悠



「大変お忙しいところすみませんが、質問したいです」。使い慣れない敬語を一生懸命書いたのでしょう。学生から届くメールは、このように微笑ましいものが多いです。しかし、こうやって分からないところを質問できる学生は多くありません。こんなことを

教員に聞いていいのだろうか」と気後れし、そのままにしてしまう学生も多いのです。

本学では、6年ほど前から授業のサポートを目的とした Student Assistant (以下、SA) を採用しています。彼らは本学の2〜4年生で、主に新生の必修授業の中で教員の傍らに立ち、学生たちをサポートする存在です。新生も、近い年齢の先輩ならば気軽に質問ができるようです。

アシスタントを採用している大学は多くあります。一般的にアシスタントは教員の補助者として採用されることが多いですが、本学では、教員とともに学生たちが、より深く・楽しく学べるためのサポートをすることを目的としています。

SAたちは、「学生のために何ができるか」を常に念頭に、学生がどのようなところでつまづいているのか、どのようなアドバイスが適切なのかを、先生方とともに考えてくれています。そして、自らも学生でありながら、後輩を

サポートすることによって、自分たちの力にもなってくれる。SAをしながら、驚くほど成長してくれる学生も多いです。

春学期を直前にして、新型コロナウイルスの感染拡大により本学でも授業のオンライン化が決まり、初めてのことで、先生方も準備に追われていたときに、SAたちは、先生方のために、オンライン授業リハーサルを協力して申し出てくれました。ポランティアにも関わらず、リハーサル24回、のべ144名ものSAが協力してくれたおかげで、不安なく授業に臨めたとおっしゃってくださる先生方もおられます。

また、今年度の新生が答えたアンケートでは「SAがいてよかった」と回答した学生は、98%を越えています。SA制度は、本学の特徴として広報でも大きく取り上げられていますが、実際にどんなことをしてくれているのかを、この機会に同窓会の皆様にご紹介させていただきます。

同窓会会員の

みなさまへ



商学部長の村林です。商大のオンライン授業の様子をご報告いたします。

【春学期について】

(1) コロナ禍により、卒業式も入学式も中止せざるをえず、春学期の開始時期を延期しました。その時点では、「教室収容人員を制限しなくてはならないため、予定の教室の授業を撮影し、他の教室に中継する方法」を検討しました。

(2) 4月中旬に、春学期全科目オンラインと決めました。他大学の多くがまだ「全面オンライン」を発表する前だったと記憶しています。その根拠は、①新入生も含め全学生がPCを所有している。②1年次に、PCの

使用方法を学んでいる。③

Google Class Roomの、使

いる。これら3点でした。 (3) オンライン授業を行うからには、やむをえずではなく、商大の教育の質の向上を図ることを目指すとし、学生の意見を積極的にきくことを心がけました。

安全に、かつ質を上げるためには、学生の協力は必須で、彼ら彼女らの声を真摯にうけとめ、秋学期改善し、学生の満足度を飛躍的に上げたいと考えています。

【秋学期を開始して】

(1) 第1・2週（9月28日から10月9日まで）を、1年生の登校日とし、クラス制の必修科目を対面式にて行いました。地方在住で、一旦神奈川県に行くこと、地方の実家に帰ることができない、高齢者と同居しているため、公共交通を使つての通学は見合わせたいなどの理由による参加できない学生がゼロではありませんでしたが、多くの学生が通学

し、初顔合わせをしました。

授業開始前はほとんど話し

声もなくよそよそしい態度でしたが、教員・SAの努力でアイスブレイクが工夫され、授業終了後の様子は、普段の大学の雰囲気と変わらぬ状況でした。待つていたということなのか、さらには、商大学生のコミュニケーション能力を改めて見直すことができました。

(2) 例年、夏休みを経過し、秋学期を迎えるにあたり、休学希望、退学希望があります。今年、オンライン授業であったこと、報道では各大学で、退学希望者が増加しているとき、不安を感じていました。結果、ゼロではありませんが昨年と比較して増えるどころか、減りました。

(3) 学年別登校週を設定し、ゼミは原則教室にて対面式を実施します。

(4) クラブ活動は、安全行動計画書を自ら策定し、条件付きですが再開していきます。

【今後に向けて】

2021年度は、以前どおりの全面対面式授業の可能性はゼロと考えています。ワクチンがいきわたり、社会が完全に元に戻ったとしても、オンライン授業のメリットを考え、対面式とオンラインの組合せによる新しい授業方式を実行します。クラブ活動の再開、就職活動支援、飯山祭に地域の方々・卒業生にご参加いただける方法など、検討項目は多岐にわたります。

以上、大学の現状をお知らせしました。入試は予定どおり実施します。卒業生のみならず、皆さまのお子さま方に、「行きたい」と思っていただけの大学を目指し、精進いたします。引き続き、ご支援・ご協力いただけますよう、よろしくお願いたします。

新設

目指そうスポーツビジネスのエキスパートをスポーツマネジメントコース(経営情報学科)誕生！  
詳細は横浜商科大学  
TEL 045-571-3901へ



2020東京オリンピック  
クレール射撃スキート種目代表決定!!

45回生(2014年9月卒業) 井川寛之氏  
コロナ禍の中1年延期されましたが、  
全商大パワーで応援しましょう!

ガンバレ いがわ

## 新会員紹介

### 商学部商学科卒業

菅野 裕太

大学内でのイベントや活動に携わる機会に恵まれ、学びの場としてとても充実した大学生を送ることができました。一年生の時から大学祭実行委員会の一員として活動したことをはじめ、他団体の活動にも参加させていただきました。四年生からは学生自治会員として在学生のサポートや新たなイベントの考案などを行いました。また、ゼミ活動ではSNSを活用した鶴見区のイベントの情報発信や、電子商取引の事例や今後の動向について研究をしました。

これらの活動を通じて私は活動に関する知識を得ただけではなく、ほかの人と協力して物事を成し遂げる力や、人との意思疎通をすることで円滑に話を進めていく力をつけることができたと思います。そしてこれらの経験はこれから生きていくうえで必要なものの基礎として活かせるもの

になると思います。実際に私は新社会人として日々を過ごしていて、大学生活での活動を通じて得た力が仕事をしていくうえで重要なものになったと実感しています。

コロナ禍での生活がこれからいつまで続くかわからない状況で不安なことも多く、今後私がどのような仕事や経験をすることになるかわかりませんが、大学で学んだことを活かして日々精進していきたいと思っています。

### 商学部経営情報学科卒業

山本 一瑛

青森からやってきた田舎者が、大学を卒業し社会人になった。今だから大切だと確信することが1つ。「人との繋がりを大切にすることだ。最初は友達を作ることには必死だった。会話をしている、訛りが効きすぎて意味が通じないことにショックを受けながらも自分の居場所を求めていた。おかげで、初めての一人暮らしを支えてくれる仲間が増えた。中には、頼んでもいないのに貯金箱を作り、家

に来る度に小銭を入れてくれる人も出て来た。次第に、「ペンペン」という名前とは全く関係のないあだ名が付き、思わぬ知名度になったことは否めない。

ゼミが始まってすぐ、私はゼミ長になった。当初、ゼミ生が2人しかいないとても小さなゼミだったが誇りに感じた。明確な方針を掲げ、より良い活動にするため試行錯誤を繰り返しゼミ生を増やした。結果的に10数名の規模ではあったが、卒業までゼミ長ができたのもゼミ生と顧問の支えがあったからだと改めて言える。2年の秋、先輩からの誘いでSAを始めた。SA同士はもちろんだが、それ以上に教職員や授業を受けている学生と友好関係が築けたことがとても大きかった。4年の春で辞めてしまったが、慕ってくれた多くの学生には感謝しきれない。2年の冬、簿記・会計の部活を設立する話が舞い込んできた。最初は半信半疑だったが、推されるがまま既に休部になっていた

会計学研究会を復活させ部長

になった。その後、まもなく文化部連合会の会計になった。そこで新たな仲間と出会い、大胆な企画や体を張った広報活動、積極的な組織拡大など体育部に負けず劣らず取り組んだ。3年の冬、当時の仲間とともに学生自治会に入り、私は財務を任せられた。在任は1年と短かったが、これまでになく責任感を抱えながら、希薄だった学生自治会の存在意義を在校生に認知できたと自負している。

想像以上にトントン拍子で進んできたが、必ず隣には仲間がいて、いずれも「信頼の下に今の自分がある」という考えだった。互いに共感し合いながら、新しいことに躊躇せず挑戦した。役職が次々に任せられ、見る景色が異なっても、価値観の相違から仲間と衝突しても、人との繋がりを疎かにしたことはない。常に人と繋がってきたからこそ、縁が生まれチャンスが生まれる。社会人になってからそれがより重要だということが体感できる。「自慢話か」と言われてしまえばそれまでだ

が、読んだ人に少しでも伝わると寄稿した甲斐がある。

### 商学部観光マネジメント学科卒業

藤森 翔太

大学生生活を振り返ってみると毎年様々なことに挑戦し全てが濃い思い出となっております。

大学1年生の時には初めての一人暮らし、初めてのアルバイトに奔走しながら資格取得や講義を真剣に学ぶことができました。必修科目を始めとした講義では様々なグループワークがあり多くの友人を作るきっかけになりました。また、観光マネジメント学科に所属していたことで多くの人が観光・旅行に興味を持っており必然的に大学生活を通して様々な場所へいくことができました。

大学2年生の時に特に挑戦したことは部活の部長として活動したことです。私はホスピタリティ研究部という部活に1年生から入部していました。活動内容は東京・横浜地域の観光や旅館・ホテルで一週間程度インターシップを

行う日本学生観光連盟という組織に加盟し活動していました。この組織は様々な大学が加盟しているため横浜商科大学以外の学生とも交流をすることができました。多くの活動はこの組織を通しての活動でした。そして2年生、私が部長になったこともあり組織外での活動もすることができました。例えばホテル見学であつたり日本一大きなクルーズ船、飛鳥Ⅱの見学などです。また、多くの部員が集まれるイベントやミーティングをすることで横のつながりだけでなく学年を超えた縦の繋がりを築くことができました。例年部長になるのは3年生であつたため2年次から部長になることは異例でしたがお陰で様々な苦労、達成感を味わうことができました。

大学3年の時には総合旅行業務取扱管理者という資格を取得しました。この資格は旅行代理店の営業をするのに必ず必要な資格です。私はこの資格を取得したいと思い横浜商科大学に入学しました。1年次に国内旅行業務取扱管理

者という資格を取得し、それから上位資格の総合旅行業務取扱管理者の勉強を続けて来ていたため合格と知ったときはとてもない達成感を感じました。今でもその時のことを思い出すとうれしく思えます。

大学4年の時は学生自治会の副会長として活動をしました。全学生をまとめる自治会という組織の認知度を上げるために文化祭に積極参加や学生大会の運営を行いました。

全てがとても良い思い出、経験になりその結果として私は就きたい職業に就くことができました。私を支えてくれた両親や友人、先生、教職員の皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

**商学部経営情報学科卒業**

**四家 潤葵**

令和2年3月に横浜商科大学を卒業いたしました。四家潤葵と申します。私は大学生活のうち、3年間で学生組織の会長として過ごしてきました。2年次と3年次には文化

部連合会の会長を、4年次には学生自治会の会長を務めてまいりました。現在、新社会人となり、IT企業に勤め、コンサルタントを行っており、社会人としての活動を通して、社会人と学生の大きな違いに気づかされる事が多々ございました。

1点目は、行動の1つ1つに責任が伴うことです。学生時代には、成績が悪くても、授業に出なくても責任は自分のみ課せられます。しかし、社会人となった今、1つ1つの行動が全て会社の責任となります。勤務中や生活においても、ルールやマナーをこれまでに以上に遵守しなければならぬと感じました。

2点目は、自己管理能力が求められることです。私は学生時代に管理していたスケジュールは、授業の日程、大学の日程の3つが中心でした。しかし、社会人になって、会議日や研修日、お客様との面談日程、訪問日程など、これまで以上に細かなスケジュール管理が求められるま

す。今年1月に買った手帳は既にボロボロです。また、急に予定が入ることもある為、不測の事態に備えたスケジュールリングとスケジュールの管理を行うことが重要だと感じました。

3点目は、能動的な人間であることです。学生の頃は、好きな授業を履修して、単位取得のために授業に出席する事が大半でした。今思えば、受動的な学生だったかもしれませぬ。私の友人の中では、検定取得のため自ら進んで資格勉強をする方や、趣味に没頭する方がいました。そのような方が能動的な学生であり、主体性がある学生だと考えます。そのように、目標に向かって挑戦する能動的な姿勢が大切だと感じました。

最後に、これらの社会人と学生生活の違いを発見できたことは、恵まれた大学生活で自己探求に励むことが出来たからだと感じております。社会人として必要な教養を与えてくださった先生方、社会人になって必要なマナーや経験を与えてくださった大学職員

の方々、大学生活をより充実したものにしてくれた友人たちには、心より感謝申し上げます。今大学で学生生活を過ごしている後輩達は、真の自己を探求できるよう、悔いの残らぬよう日々活動してください。そして、同窓会で思い出話を是非聞かせてください。



**訃報**

王子天徳名誉教授  
二〇一九年十月十六日ご逝去されました。(86歳)  
心よりご冥福をお祈りいたします。

### 支部だより

ハンドボール部支部

令和元年10月27日(日)  
12時より、日本青年館ホテルにて。



関西支部

令和元年12月7日(土)  
午後1時より、リーガロイヤルホテル「リモネ」にて

不動産支部

令和元年10月29日(火)  
午後6時30分より、株式会社マイカにて。



福島支部

令和2年2月15日(土)  
午後6時より、ホテル福島グリーンパレスにて。



## 第6回ホームカミングデー

**中止**

## 第53回 飯山祭

『出会い』をコンセプトに  
学生と教職員のみでの参加によりオンラインでの開催決定！  
飯山際の伝統をつないでいく！！

## 《2019年度 第50回学位授与式で表彰される予定であった卒業生の紹介》

- 1. 学長賞(学術賞) 中村朱里さん(商学科)・上田和輝さん(観光マネジメント科)  
山本一瑛さん(経営情報科)
- 2. 学長賞(スポーツ賞) 嘉門裕介(硬式野球部)・菊池元貴さん(剣道部)
- 3. 学長賞(特別賞) 村上航暉(神奈川産学チャレンジプログラム最優秀賞受賞)
- 4. 松本武雄賞  
佳作 安住宇剛さん(遠谷貴裕ゼミ)  
佳作 中村朱里さん(吉田隆弘ゼミ)  
佳作 前田海渡さん(柳田義継ゼミ)

受賞された皆さま本当におめでとうございます。  
コロナ禍という異常な時代に社会へと巣立たれましたが、怯むことなく前進され、そしてご活躍されることを心より期待しています。

### 編集後記

2020年は、世界中がコロナ禍での新しい生活様式がはじまり、たび重なる自然災害など厳しい社会情勢であります。そんな中で母校は飯山の小さな小さなキャンパスから未来に向かって必至に頑張っています。同窓会も、これまでと同様に会員一人ひとりが母校を想い車の両輪として、母校のため、社会のために心を一つにしましょう！  
会報49号発行に皆さまのご協力ありがとうございました。尚、この会報は10年間HPに掲載されますことをご了承願います。

— 紀 —

